

美しいやまがたの海 フラットフォーム版

最上川
赤川

ごみマップ



日本海



回収されずに海へ流れ出たプラスチック製品は、長い時間をかけて破片化していき、回収がとても難しくなります。プラスチックも発泡スチロールも破片化する前に回収することが重要です。

漂着・散乱ごみワースト10

【赤川】	品 目	個数	【最上川】	品 目	個数
1	発泡スチロールの破片	3 2 6	1	発泡スチロールの破片	1 2 2 4
2	飲料ペットボトル	1 6 1	2	飲料ペットボトル	7 9 0
3	飲料缶	1 5 5	3	飲料缶	1 6 0
4	ポリ袋・シートの破片	8 2	4	ポリ袋・シートの破片	1 3 0
5	硬いプラスチックの破片	7 4	5	プラスチックボトル(洗剤剤やシャンプーなど)	1 1 2
6	飲料びん	6 3	6	食品のポリ袋	1 0 3
7	食品のポリ袋	6 3	7	硬いプラスチックの破片	9 7
8	食品のスチロール容器	5 5	8	飲料びん	9 2
9	買い物レジ袋	4 8	9	食品のプラスチック容器	4 8
10	食品のプラスチック容器	3 9	10	スプレー缶・カセットボンベ	4 7

最上川・赤川ともに、1～4位は同じ品目です。飲料用のペットボトル、缶、びんと飲み物に関する3品目がランクインしています。地域ごとの構成割合を見ると、飲み物に関するごみの割合が下流に行くほど増えていくことがわかります。発泡スチロールの破片は村山地域で約40%を占めており、すでに破片化が始まっています。このことから、発泡スチロール製品は捨てられてから短期間で破片化することがわかります。

最上川・赤川から、ごみを無くすには？

最上川、赤川ともに、飲食関連のごみが上位にランクインしていました。私たちの生活で使われていた物が、川を汚し、海に流れていくことがわかります。また、ごみが溜まりやすい地形や、川岸の様子がわかってきました。

▷ごみが流れ着きやすいところ

- 石堤・消波ブロック・立木があるところ
- 川が大きく曲がっているところ
- 川と川が合流するところ

▷ごみがポイ捨てされたり、放置されたりしやすいところ

- 河川敷に下りる道路があるところ
- 河川敷が利用されているところ(河川公園や畑など)

ポイ捨てしない、捨てさせない、ごみを放置しない地域をつくり、ごみのたまりやすい場所を把握し、重点的に清掃することで、川を流れ下るごみが減り、ひいては海のごみを減らすことにつながります。

また、マイバッグやマイボトルを持ち歩くなど、3R(※2)の取り組みを徹底することで、社会全体で発生するごみの量を減らしていくことも大切です。

※2 3R…リデュース(ごみを減らす)、リユース(繰り返し使う)、リサイクル(分別して再資源化)

このごみマップは、平成25年度に赤川、平成26年度に最上川で行った漂着・散乱ごみ調査結果をまとめたものです。県民の皆さまに身近な川のごみの様子を知っていただき、美しい山形の川と海を取り戻せることを願っています。

調査範囲…最上川では米沢市の松川から河口部まで約220km、赤川では支流の梵字川から河口まで約45kmを調査しました。

調査方法…「水辺の散乱(漂着)ゴミの指標評価手法」(※1)を参考に最上川では57地点、赤川では28地点でランクを判定しました。そのうち、回収が可能な地点(各19ヶ所)については品目別に個数を数え、ごみの構成割合を調べました。

※1「水辺の散乱(漂着)ゴミ指標評価手法」…水辺の散乱(漂着)ごみの状況(量)を調べる方法の一つ。調査地点で写真を撮り、基準となる写真と比較するか、実際にごみを回収することによりごみの量を把握し、ランクを判定します。

ランク 河岸10m当たりのごみの量

0	0袋(0L)
1T	約1/16袋(1.25L)
T	約1/8袋(2.5L)
1	約1/4袋(5L)
2	約1/2袋(10L)
3	約1袋(20L)
4	約2袋(40L)
5	約4袋(80L)
6	約8袋(160L)

7	約16袋(320L)
8	約32袋(640L)
9	約64袋(1280L)
10	約128袋(2560L)

ランクは家庭用のごみ袋(20L)を基準にしています。ランク7以下は該当箇所がないため、略記としました。

